

ガイナ 施工ガイド

職人さん施工店さまのための本

～ ガイナの効果を十分に発揮させるためには
基本の施工要領を守ることが極めて重要です ～

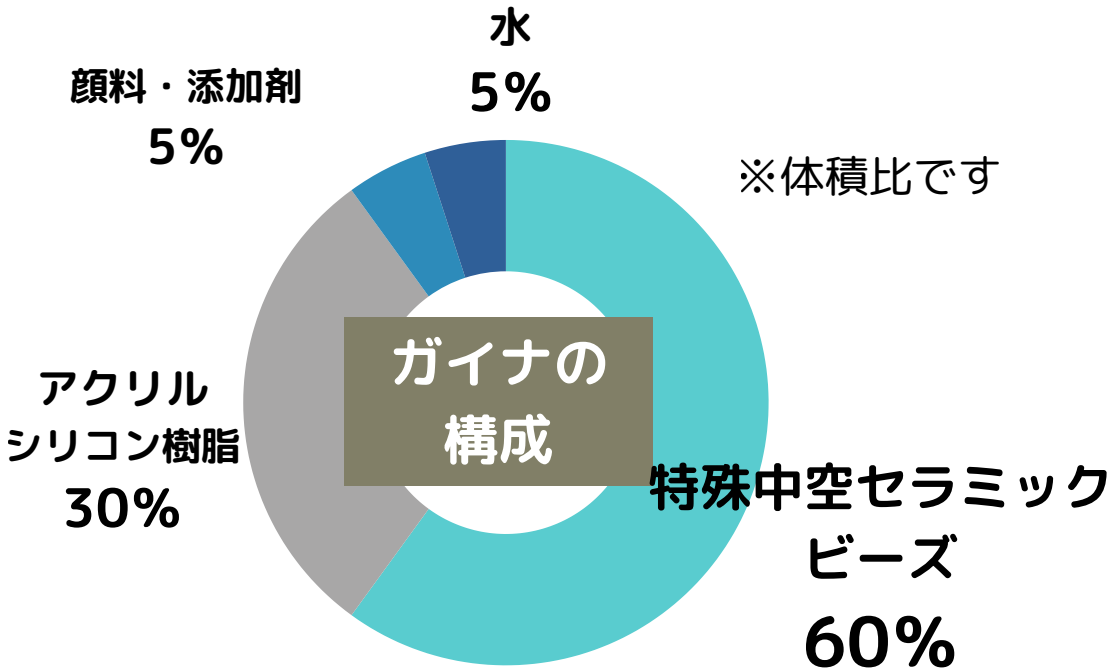
1. ガイナとは	2
2. 塗装施工仕様	3
3. 下塗り材一覧	4-5
4. 施工道具	6
5. 準備工事	7-9
6. 下地処理	10-15
7. 塗替え	16
8. 塗装準備	17-18
9. 共通・安全	19-20
10. お手入れ方法	21

ガイナとは

ガイナは 水性1液塗材です

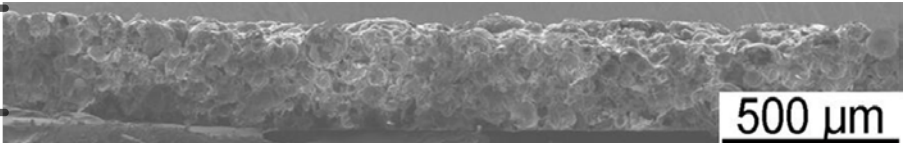
希釈は清水で
行って下さい

※井戸水は不可



表面の8割以上はセラミックで構成されます。

セラミック



ガイナ	
用途	外壁、内装
内容量	14kg/7kg
希釈	ローラー：0～10% 吹付け：10～20%
塗布量	0.4kg/㎡～0.46kg/㎡ 刷毛、ローラー：14kg 30～35㎡ ：7kg 15～18㎡ 吹付け：14kg 24㎡～31.5㎡ ：7kg 12㎡～16㎡ ※飛散ロス10～20%想定

内装用ガイナ	
用途	内装専用(低臭タイプ)
内容量	14kg/7kg
希釈	ローラー：0～10% 吹付け：10～20%
塗布量	0.4kg/㎡～0.46kg/㎡ 刷毛、ローラー：14kg 30～35㎡ ：7kg 15～18㎡ 吹付け：14kg 24㎡～31.5㎡ ：7kg 12㎡～16㎡ ※飛散ロス10～20%想定

コテ専用用ガイナ	
用途	外壁、内装
内容量	14kg/7kg
希釈	コテ：0～3% マスチック：0～3%
塗布量	0.7kg/㎡～1kg/㎡ コテ：14kg 14～20㎡ ：7kg 7～10㎡ 0.5kg/㎡～0.7kg/㎡ マスチック：14kg 20㎡～28㎡ ：7kg 10㎡～14㎡ ※模様の大さによって変動します。

ガイナスーパークリーン	
 ※認定施工店のみの取り扱いとなります	
用途	屋根、外壁、内装
内容量	14kg/7kg
希釈	ローラー：0～10% 吹付け：10～20%
塗布量	0.2kg/㎡～0.23kg/㎡ 刷毛、ローラー：14kg 60～70㎡ ：7kg 30～36㎡ 吹付け：14kg 24～31.5㎡ ：7kg 12～16㎡ ※飛散ロス10～20%想定

塗装施工仕様

ローラー、吹付け仕上げ

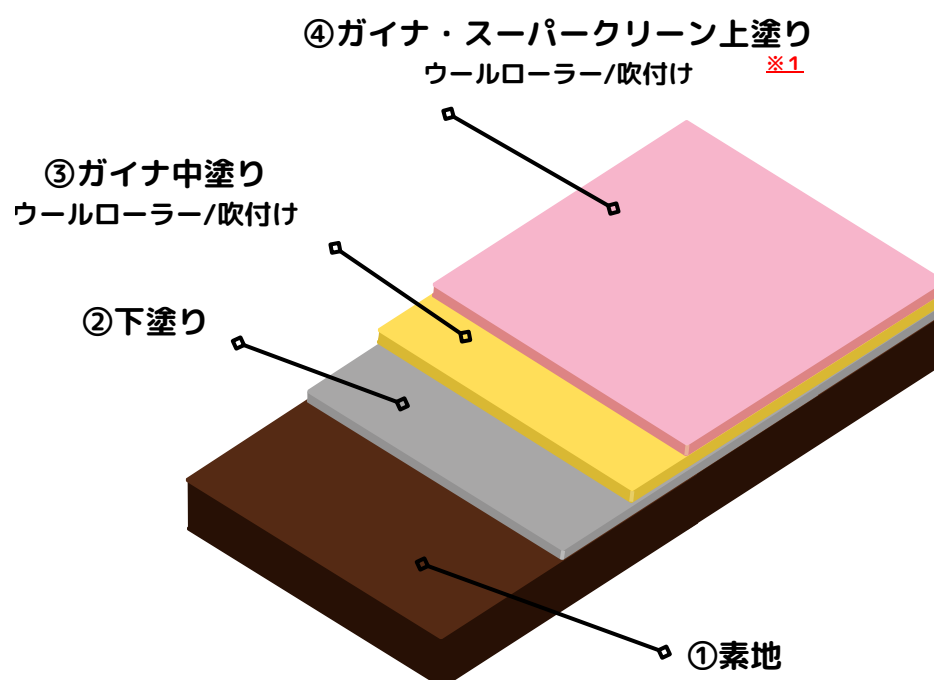
適合品：ガイナ、内装用ガイナ・スーパークリーン※1

所要量：0.4kg/m²～0.46kg/m²

14kg ローラー：30～35m²
吹付け：24～31.5m² ※10～20%飛散ロス考慮

7kg ローラー：15～18m²
吹付け：12～16m² ※10～20%飛散ロス考慮

●500ccを目途に、用途、又は塗りやすい粘度に希釈して下さい。



コテ仕上げ

適合品：コテ用ガイナ

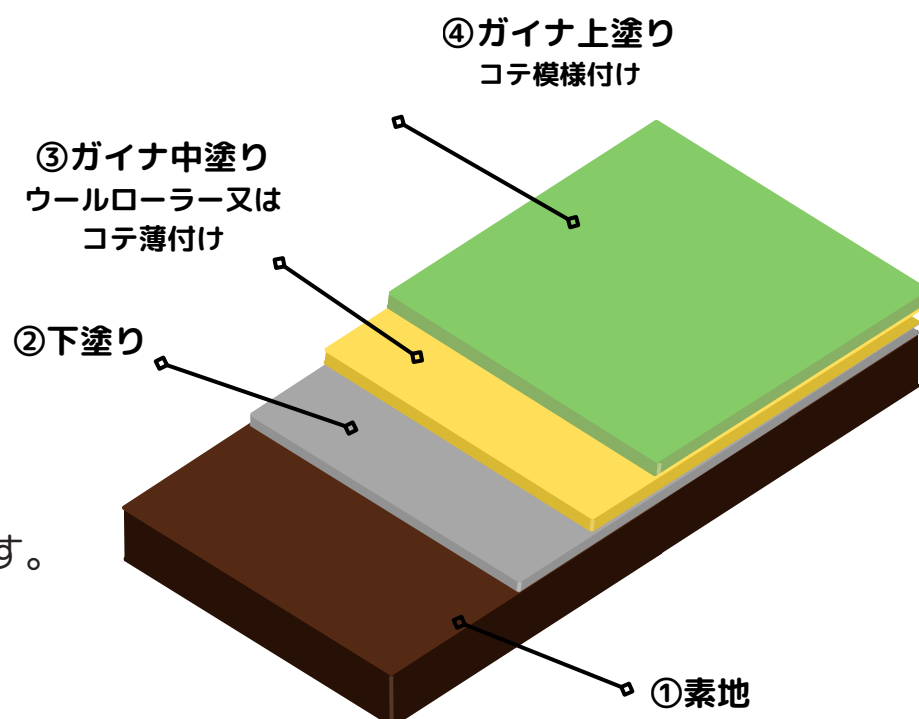
所要量：0.7kg/m²～1kg/m²

14kg コテ：14～20m²

7kg コテ：7～10m²

※模様の大きさで使用量は変わります。

- 発注時にコテ塗り用とご指定下さい。水分量を調整したものです。
- 様々なパターンごとの施工要領はございません。



マスチック仕上げ

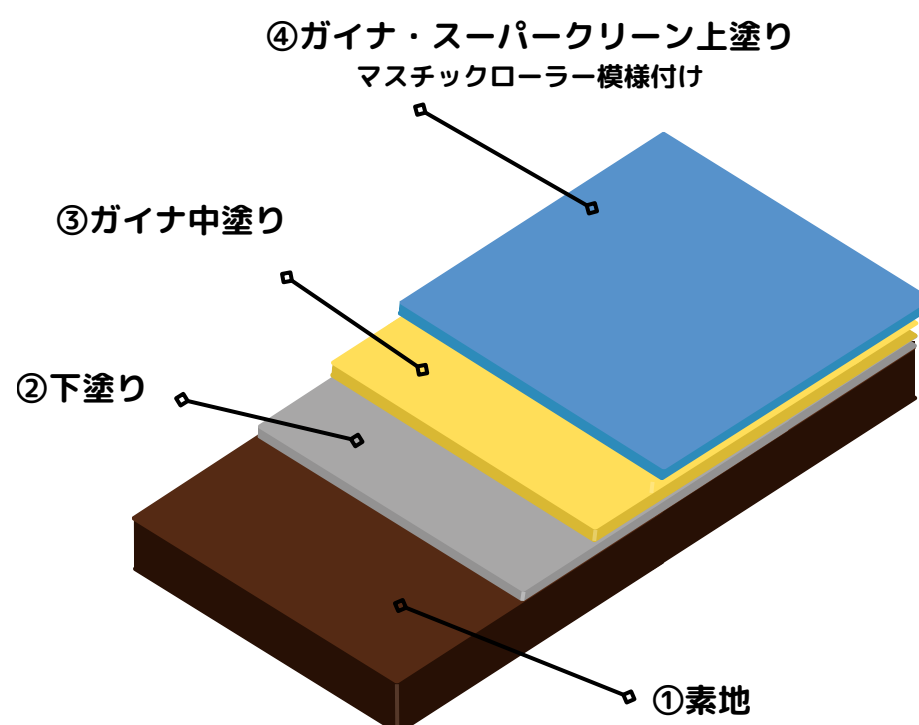
適合品：ガイナ/スーパークリーン※1

所要量：0.5kg/m²～0.7kg/m²

14kg マスチックローラー：20～28m²

7kg マスチックローラー：10m²～14m²

※模様の大きさで使用量は変わります。



※希釈率は色目 及び施工時の気温により変化することがあります ので了承願います。

※1 スーパークリーンは認定店のみの取り扱い商品です。

下塗り材一覧

下塗り材一覧

	新築・新設 下地材														
	コンクリート	セメントモルタル	プレキャスト コンクリート部材	窯業系サイディングボード	ALCパネル ※1	押出成形板	スレート板	石膏ボード類	珪カル板	金属サイディングボード	木部	鉄部	アルミニウム	ガルバニウム鋼板	亜鉛メッキ鋼板
ガイナ 水性カチオンシーラー	◎	◎	×	○	×	×	◎	◎	◎	○	×	×	×	×	×
ガイナ メタルプライマーⅠ	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	◎	○	○	○
ガイナ メタルプライマーⅡ	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	◎	◎	◎	◎
ガイナ マルチシーラー	◎	◎	◎	◎	×	◎	◎	×	○	◎	×	×	○	○	○
ガイナ 微弾性フィラー	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

	屋根				旧塗膜								内壁		
	スレート系 (カラーベスト・コロニアル)	粘土瓦 (釉薬瓦)	洋風 コンクリート瓦	セメント瓦	アクリルリシン	スタッコ	左官壁材 (塗り壁)	アクリル樹脂塗料	ポリウレタン樹脂塗料	塗料 アクリルシリコン樹脂	無機塗装サイディング	光触媒サイディング	塩ビクロス面	ペイント 合成樹脂エマルション	じゅらく
ガイナ 水性カチオンシーラー	×	×	×	×	◎	◎	◎	◎	◎	◎	×	×	◎	◎	◎
ガイナ メタルプライマーⅠ	×	×	×	×	×	×	×	○	○	◎	×	×	×	×	×
ガイナ メタルプライマーⅡ	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	×	×
ガイナ マルチシーラー	◎	×	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	×	×	○
ガイナ 微弾性フィラー	×	×	×	×	◎	◎	×	◎	◎	◎	×	×	×	○	×

● 推奨品 防水面 東日本塗料 ●

防水面		フローン エコプラ速乾	カチオン浸透 エポプライマー	塗替え プライマーエコ	水性エクセル プライマー	フローン塩ビシート 防水面プライマー
	アスファルトシングル	×	◎	×	◎	×
	ウレタン	×	×	◎	×	×
	アスファルト系シート 防水面 (砂付き)	×	◎ ※4	◎ ※4	◎ ※4	×
	FRP	○ ※2	×	×	×	×
	塩ビシート	×	×	×	×	◎ ※3
	合成 (加硫ゴム) シート	×	×	◎	×	×
	露出アスファルト (砂付)	×	◎ ※3	◎ ※3	×	×
	押さえコンクリート	◎	◎	×	×	×

※1 ALCパネルは、適切な下地調整材を入れて下さい。

※2 アセトン拭き併用による研磨、下地処理することクーリングタワー等のFRP成型品の場合は密着試験を推奨。

※3 設置半年以上経過したシートであること。新規の場合ペーパーで表面を目荒らしを行って下さい。

※4 砂付きであること

●推奨製品●

下塗材一覧

製品一覧			
	製品名	一般名称	色
下塗り	ガイナ水性カチオンシーラー	カチオン系アクリル樹脂下塗材	透明・白色
	ガイナメタルプライマーⅠ	1液変性エポキシ樹脂下塗材	白色
	ガイナメタルプライマーⅡ	2液変性エポキシ樹脂下塗材	白色
	ガイナマルチシーラー	エポキシ樹脂浸透系下塗材	白色
	ガイナ微弾性フィラー	可とう形改修塗材E	白色

ガイナ水性カチオンシーラー



- ①カチオン系自己架橋型エマルジョンなので、下地や既存塗膜との密着性に優れています。
- ②超微粒子のエマルジョンなので、浸透性に優れています。
- ③耐水性、耐アルカリ性に優れています。

種類	カチオン系アクリル樹脂下塗材、水系
用途	内外装用下塗り材
荷姿	15kg／缶
希釈	無希釈
所要量	0.10～ 0.19kg／㎡
施工面積	78～150㎡
施行方法	ローラー・刷毛・吹付け

ガイナメタルプライマーⅠ



- ①特殊変性エポキシ樹脂を使用し、2液変性エポキシ樹脂さび止め塗料同等の効果を発揮します。
- ②弱溶剤系なので旧塗膜を侵しにくく鉄部、亜鉛メッキにも密着、木部等に対する目止め効果が高く、幅広い下地に対応できます。

種類	1 液変 性エポキシ樹脂下塗材・弱溶剤形
用途	鉄部錆止め 金属部・木部
荷姿	16kg／缶
希釈	ガイナ専用シンナー
所要量	0.13～ 0.15kg／㎡
施工面積	106～123㎡
施行方法	ローラー・刷毛・吹付け

ガイナメタルプライマーⅡ



- ①亜鉛メッキ、アルミニウム、各種塗膜に対して付着性に優れています。
- ②強溶剤のような強い臭気はありません。人、環境に影響を及ぼす有害物質を含みません。

種類	2 液変 性エポキシ樹脂下塗材・弱溶剤形
用途	鉄部錆止め 金属部・木部・その他
荷姿	16kg／缶セット（主材：14.4kg 硬化剤：1.6kg）
希釈	ガイナ専用シンナー
所要量	0.14～ 0.17kg／㎡
施工面積	94～114㎡
施行方法	ローラー・刷毛・吹付け

ガイナマルチシーラー



- ①下地への抜群の密着力を持っており、各種サイディングや屋根の下塗りとして使用頂けます。
- ②含浸性に優れ、下地の深部に浸透し、優れたくさび効果を発揮します。
- ③ヘアークラック等の劣化層、脆弱部層に対して表面へのとまりも兼備し、がっちりと補強します。
- ④水分や二酸化炭素の侵入を防ぎコンクリートの中酸化、凍害を抑制します。

種類	エポキシ樹脂浸透系下塗材・弱溶剤形
用途	外装用下塗材・屋根用下塗材
荷姿	15kgセット（主材：12.5kg、 硬化剤：2.5kg）
希釈	無希釈
所要量	0.01～0.34kg/㎡ ※下地の劣化具合により使用量は変化します。
施工面積	44～150㎡ ※下地の劣化具合により使用量は変化します。
施行方法	ローラー・刷毛・吹付け

ガイナ微弾性フィラー



- ①微弾性の塗膜が、ヘアークラックに追従します。
- ②下地の目止め効果も抜群で、なだらかな模様が形成され美しい仕上げが得られます。
- ③ローラー、塗装などの作業性に優れ施工しやすい材料です。

種類	可とう形改修塗材E
用途	各種旧塗膜の改修
荷姿	16 kg／缶
希釈	清水
所要量	0.3～ 0.6 kg／㎡（ウールローラー） 0.8～ 1.5 kg／㎡（多孔質ローラー） 0.7～ 1.2 kg／㎡（吹付）
施工面積	26～ 53㎡（ウールローラー） 10～ 20 ㎡（多孔質ローラー） 13～ 22 ㎡（吹付け）
施工方法	ローラー・吹付け

※2液形の製品は、主材と硬化剤を指定の比率で調合し、ミキサーで混ぜ合わせて下さい。特に小分けでご使用の場合は計量器で正確に計量を行なって下さい。

・混合後の製品は、可使時間以内に使い切ってください。

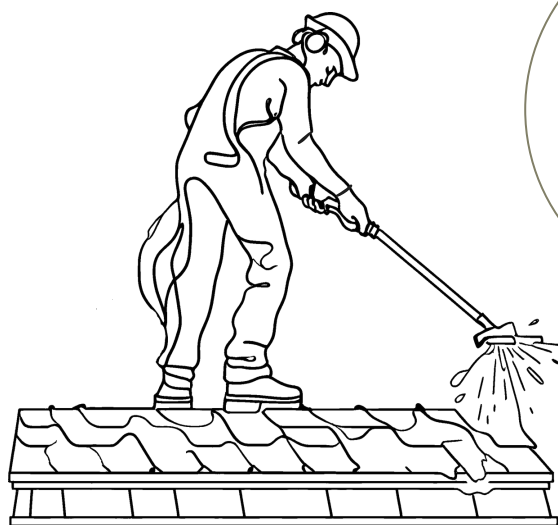
また、可使時間は温度、希釈によって変わりますので、混合後はなるべく早く使い切ってください。

推奨工具

	エアレス	エアレス	電動スプレーガン
			
メーカー	精和産業	WAGNER	WAGNER
機械名	TB-8又は9	HER023	フレキシオi570
吸引方法	ホッパータイプ/サククションタイプ	ホッパータイプ（20L）	吸い上げ式
ホース	イエローホース	防振ホース	
ガン	TPG-1	ベクタープロエアレスガン	
フィルター	赤（粗目）	極粗目（緑30メッシュ）	
ヘッド	ターンクリーン用		
チップ	ターンWチップ 1840	HEAチップ517	
希釈量	15～20%	10～15%	10～15%
	スプレーガン	温風低圧塗装機	※塗装面までは30センチ程度で塗装して下さい。 ※フィルターが必要な場合は、極粗目を使用して下さい。 目詰まりが起こる可能性があります。 他社エアレスをご使用の場合はご確認の上ご使用下さい。
			
メーカー	大塚刷毛製造	ABAC	
機械名	0-LightII	SG-2500	
吸引方法	重力式／吸い上げ式／圧送式	重力式	
ホース			
ガン	0-L ightII	PN5スプレーガン	
フィルター			
ヘッド			
チップ	1.5 又は1.8	2mm～3mm	
希釈量	15～20%	10～15%	
豚毛	白豚毛/化学繊維		
ローラー	中毛/13mm前後 長毛/20mm以上 砂骨/各種		

準備工事

高圧洗浄について



トルネードタイプ推奨

※屋根洗浄では劣化度合いを考慮の上



高圧洗浄により屋根材や壁材の脆弱部などで破損の恐れがある場合を除き、**150kgf/cm²以上の水圧**で洗浄を行って下さい。



洗浄後は、**降雨、降雪後の乾燥を十分に行って下さい。**

乾燥が不十分な場合、密着性が低下し**塗膜の膨れ・はがれなどの原因**となる場合があります。

高圧洗浄

- ・軒樋に溜まる土や落ち葉、コケなどは取り除いて下さい。
- ・高圧洗浄ができない場合はデッキブラシ等による水洗いで、ごみや汚れ、コケ、劣化塗膜（浮き、膨れ、割れ）の除去をして下さい。チョーキング面は特に丁寧に洗浄し、脆弱な旧塗膜は完全に除去して下さい。
- ・施工しない箇所（アルミ手摺等）には事前に養生を行って下さい。洗浄ホースの接触によりゴムの色移りが発生する可能性があります。
- ・コケや藻が強く付着している部位に対してバイオ洗浄や薬品洗浄を行う際は、周辺の植栽や水生生物への配慮をお願いします。ステンレス部材や磁器タイルには養生を施して下さい。
- ・漏水のおそれがある箇所には、事前に養生や防水処理を行って下さい。またシーリングが劣化している場合には、事前にシーリングを打ち替えて下さい。その際には、工程を調整するなどして3～5日間乾燥させ、シーリングの硬化を確認した後に高圧洗浄して下さい。
- ・屋根の状態によっては、高圧洗浄により生ずる洗浄水が汚濁している場合があります。雨水枡や水路、特に農業用水の水路に放流する場合には注意が必要です。
- ・屋根の汚れがひどい場合、コケや泥が近隣に飛散する可能性が高い場合、洗浄前に軒樋、破風やケラバ板金にマスカー1,100mmを貼付け、足場最上段に向けてシートを伸ばして下さい。汚染した洗浄水を効率よく軒樋に集約することができます。
- ・笠木、天端など長時間水が滞留する箇所では塗膜の白化、膨れなどが発生する場合があるので、養生シートの設置方法などに配慮し、換気を促して下さい。
- ・換気棟が取り付けられている場合、排気口付近の洗浄には十分注意して下さい。

一般

- ・トラブル回避のため、作業前に近隣に周知のうえ、足場ネットの2重掛けや、ブルーシート、防災シートなどを活用し、飛散防止策を行って下さい。
- ・屋根の状態によっては、高圧洗浄の洗浄水が汚濁している場合があります。雨水枡や水路、特に農業用水の水路に放流する場合には注意が必要です。
- ・洗浄用の水を貯める水槽には、フロートバルブを設置することで節水に繋がります。また、洗浄機の排気マフラーの向きに注意して下さい。建物側に向いている場合、室内に一酸化炭素が蔓延します。マフラー付近に可燃物がある場合火災が起きる可能性があります。

～コロナウイルス（COVID-19）感染症対策のために開発した商品ですが、コケ・藻・カビの除去に最適です～

PH12 ～ 13 の強アルカリですが、乾燥すると PH7（中性） になり植栽に無害です（人体に刺激はありません）

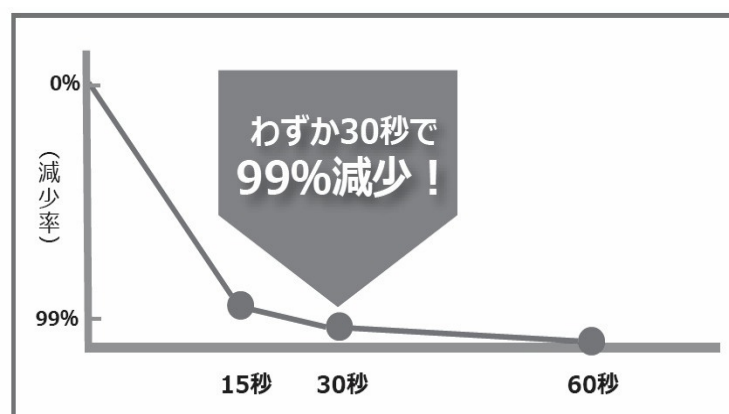
- ★環境配慮で刺激臭なし
- ★特殊製法によりアルカリやけどの心配なく人体にも安全
- ★屋根、外壁に付着したコケや藻、カビを素早く落とす

圧倒的な除菌力

〈GAINA グリーンウォーターによる新型コロナウイルスに対する不活化効果の評価〉

分析試験項目	結果	方法
SARS-CoV-2	減少率 98.6% 15s	試験菌懸濁法（Time-kill法）

新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）を
15秒で約 98.6% 不活化
3分で完全不活化



インフルエンザウイルス

分析試験項目	Log TCID50/mL		方法	試験番号
	15秒	30秒		
A型インフルエンザ ウイルス	1.7	>1.5	TCID50法	20098869001- 0701

30秒で
検出限界まで感染価が減少

ネコカリシウイルス (ノロウイルスの代替)

分析試験項目	平均プラーク数	対照	GW	方法	試験番号
ネコカリシウイルス	94	15		抗ウイルス試験	409152

84%減

一般細菌・大腸菌

分析試験項目	結果	方法	試験番号
一般細菌数 (生菌数)	300以下/g (注1)	標準寒天天培養法	20098869001-0101
大腸菌	検性/2.22g (注2)	増菌培養法	

有害な菌類が繁殖しない事を証明

皮膚一次刺激性

試験項目	対象物	試験番号
皮膚一次刺激性	ウサギ	20098869001-0401

※OECD Guideline for Testing of Chemicals 404(2015)に準拠

無刺激性

眼刺激性

試験項目	対象物	試験番号
眼刺激性	ウサギ	20098869001-0501

※OECD Guideline for Testing of Chemicals 405(2020)に準拠

無刺激性

急性経口毒性

試験項目	対象物	試験番号
急性経口毒性	雌ラット	20098869001-0301

※OECD Guideline for Testing of Chemicals 420(2001)に準拠

LD50 値が 5,000mg/kg 以上
安全性確保

ご使用方法



バロンボックス 20L で出荷

塗布量 (8～10㎡/L) 内容量 20L

- ① 散布用ポンプまたはカップガンで吹付け
- ② 10分放置
- ③ コケや藻、カビがひどい場合ブラシ等で
- ④ 高圧洗浄



清掃前



清掃中



清掃中



清掃後 8

折板屋根、金属屋根

- ・ 錆により穴が開いている箇所は、事前に防水処理を行って下さい。
- ・ 金属は、水に塗れると想像以上に滑るので十分注意して下さい。
- ・ 金属嵌合部分に強い水圧で洗浄すると漏水する可能性があります。
- ・ シルバー塗装が施された折半屋根 の高圧洗浄は、先端ノズルをトルネードタイプ に変更して実施して下さい。アルミ成分を含む汚濁した洗浄水が生じることが予想されますから、雨水枡や水路への放流する際は、その可否を建築主に確認のうえ放流して下さい。汚染の程度によっては洗浄水U字溝や雨水枡、ポリタンクなどを利用して貯水し、アルミ塗膜の破片や水に溶け込むアルミ成分などを沈殿させて上澄みを放流するなどの処理して下さい。

瓦屋根面

- ・ モニエル瓦面に対しては、高圧洗浄のノズルをトルネードタイプに変更して入念にスラリ層を除去して下さい。
- ・ 漆喰部分に強い水圧で洗浄すると、損傷する可能性があります。

高
圧
洗
浄

スレート屋根（コロニアル、カラーベスト、大波、小波スレート）

- ・ スレート屋根に付着しているコケや藻に水をかけると滑りやすくなり大変危険です。スレートは高圧洗浄は避けて下さい。
- ・ アスベストを含むスレートは高圧洗浄はできません。ケレン等により清掃して下さい。取り切れなかった汚れはガイナマルチシーラで固着することができますが、仕上がり感に影響が生じますので、建築主との協議、了解を得る必要があります。石綿作業主任者などの有資格者の指示に従って下さい。



平板スレート（カラーベスト、コロニアル）の屋根は、小口部分や重なり部分に土やほこりが滞留し、コケや藻が生えやすくなります。特に重なり部分は漏水に対する細心の注意を払いながら、ワイヤーブラシなどで特に丁寧に洗浄したのち、洗浄又は下塗り後にタスペーサー を使用するなど水分が滞留しない措置をして下さい。この部位の清掃が不十分な場合、カラーベスト の汚れの原因となることがあります。

外壁

- ・ 台所換気扇下の油汚れ等は、洗剤を用いて油分を完全に除去して下さい。
- ・ 事前に、インターフォン、水圧に弱い機械類等を養生して下さい。
- ・ 換気扇、排気口からの洗浄水の漏水に注意して下さい。
- ・ 窓、網戸、サッシレールも洗浄して下さい。網戸洗浄時は、圧力による破れに注意して下さい。サッシレールを洗浄することで施工後、サッシからの汚れた伝い水を長期に渡って防ぐことができます。
- ・ 公道に流れた汚染された洗浄水は、放置せず、水洗いして排水溝に向けて流して下さい。

下地処理

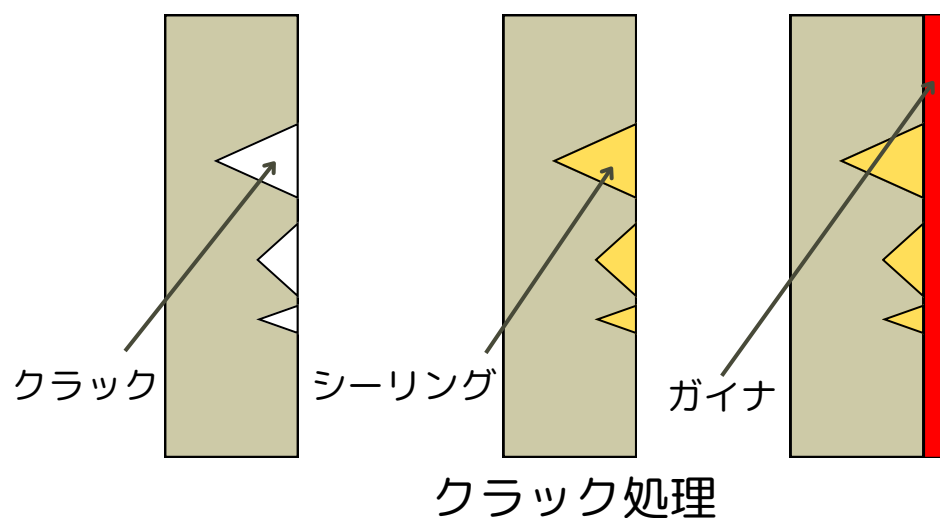
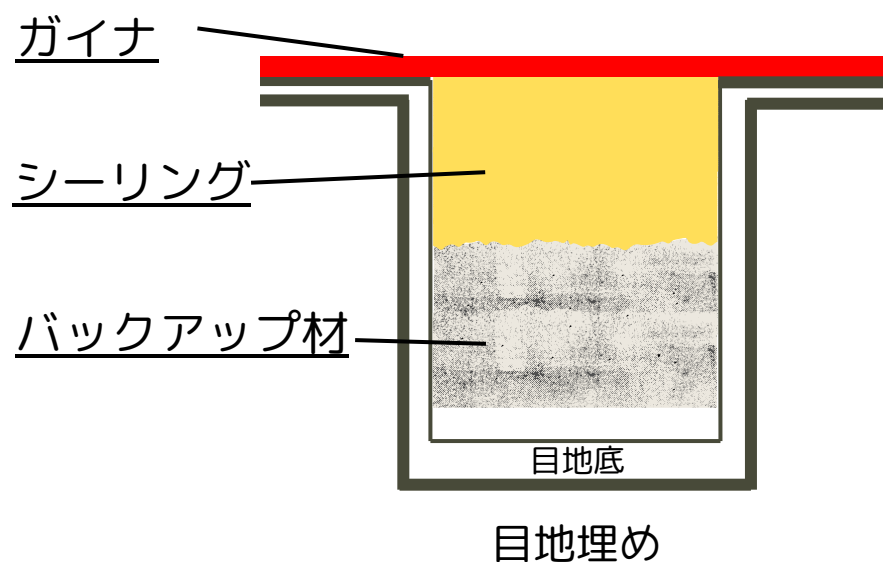
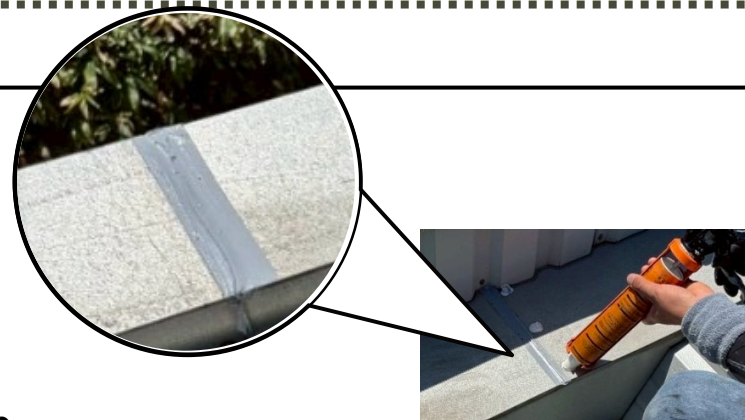
シーリングについて

✓シーリング材は先打ちを推奨します。

シーリングの上もガイナ塗装を施していただくと、シーリングの紫外線による劣化、熱による膨張を抑制し、シーリングの耐久性を高めます。

シーリング材はノンブリードタイプを選択して下さい。

※但しノンブリードタイプを使用しても経年変化に伴い、シーリング周辺にしみや汚れが発生する恐れがあります。



- ・シーリングは十分な硬化時間を確保した後、ガイナを塗布して下さい。乾燥が不十分だと、シーリングの硬化過程での収縮によりガイナ塗膜のひび割れを引き起こします。シーリング充填の後、屋根・壁塗装の工程を遅らすなどして、十分な乾燥時間を確保して下さい。
- ・シーリングの硬化が遅いと塗膜にひび割れが生じる可能性があります。耐候性の高い変性シリコン（ノンブリード）をご使用下さい。
- ・動きの激しいワーキングジョイントは、低モジュラスタイプのシーリングを二面接着で施工して下さい。動きの少ないノンワーキングジョイントは3面接着でも問題ありません。
- ・完璧な処理を施しても、風や地震などによる建物の動きにより、シーリング上に塗布したガイナの塗膜に細かなひびが入ることがありますが、防水性能を担保するのはシーリングのため、シーリングが健在な限り、ガイナ塗膜のひび割れは防水性能に影響しません。

屋根共通

- ・夜露に注意して下さい。硬化していないガイナ塗膜は他の水性塗料と同じく、夜露によって夜間流れ出す恐れがあります。夜露発生時期は、15時頃には作業を終了して下さい。（寒冷地の場合は14時頃までなど）
- ・棟板金などの釘が浮いている場合は増し打ちやビス打ちを行い、必要に応じて貫板の交換をして下さい。腐食の強い部位は錆の程度により、錆止め塗布後、アルミテープなどで補強して下さい。
- ・可塑剤が多く含まれる塩ビゾル鋼板、塩ビラミネート、プラスチック、ゴム、合成皮革などの素材には、塗料が付着しない場合や、塗装後の塗膜に不具合を生じる場合がありますので塗装を避けて下さい。
- ・35平方メートルの区画を作り、2回塗りで1缶使い切る試し塗りを行うことを推奨しています。



塗装中にゲリラ豪雨などで塗料を流してしまった場合、縦樋に塗料が生乾きのまま付着していることがあります。

この場合、次の雨天時に縦樋の下に泡のようなものが生じることがあります。必ず軒樋だけでなく縦樋の中も高圧洗浄して下さい。また塗料が混じった雨水は、雨水枡やU字溝でせき止めるなどして、放流を防いで下さい。放流してしまった場合は建築主と対応を協議して下さい。

金属部・板金屋根・折半屋根

- ・全体にマジックロンなどを使い、足付け処理をして下さい。鋁金の継ぎ目などのシーリングや防水材も必要に応じて交換して下さい。
- ・新設屋根の場合は入念な足付け作業のあと、溶剤脱脂処理を行って下さい。
- ・ボルト締め部位は特に念入りにケレンをし、最終的にボルトキャップをするのか、塗装仕上げにするのかを建築主にご相談下さい。
- ・下塗材はガイナメタルプライマーIIもしくはIをご使用下さい。
あらかじめ山部、谷部、ボルト部、錆部には下地材を塗布し全体に塗布する時に、さらに塗り重ねて下さい。
ガイナの仕上がり色が明度85番以上の場合、ホワイト色のプライマーを使用し、下塗りの時点で真っ白に塗り上げて下さい。ローラーはマイクロファイバーの長毛を使用すると均一に染まり、底抜けを防止できます。（但し、**ガイナ塗装時はマイクロファイバー毛のローラーは使用不可**）
- ・生乾きの状態では作業員の歩行などで屋根材がたわみ、谷部分入隅にひび割れができることがあります。
- ・波型トタンの山部分、及びトタン板の継ぎ目、折り曲げ部分は膜厚が薄くなりがちです。先に拾い塗りすることをおすすめします。
- ・積雪の影響を最も受けやすい軒先部分や瓦棒の凸部はこすりつけるように増し塗りを行って下さい。



金属系屋根は、1回目のガイナ塗装ではローラーが滑りやすく感じます。
材料を置くイメージで塗装し、膜厚を確保します。その際、膜厚確保がしやすい、**ウールローラー中長毛（20mm前後）を推奨**します。

瓦系屋根

- ・撥水処理など特殊な処理を施された素材や、燻瓦などでは、塗料が付着しない場合や、塗装後の塗膜に不具合を生じる恐れがありますので塗装を避けて下さい。
- ・釉薬瓦は避けた方が無難ですが、入念な目荒らし後、ガイナマルチシーラーを使用すれば可能です。
- ・コンクリートやセメント素材の屋根瓦には塗装が可能です。
- ・軒先部分にはローラーや刷毛を使用して圧力を加えて塗布して下さい。



瓦形状の屋根材には、吹付けが最適ですが環境により吹付け施工が不可の場合、**ラスター刷毛を推奨**します。その際、膜厚確保の為3～4回重ね塗りが必要となります。

波板スレート屋根

- ・ 事前に、アスベストの含有調査を実施し、石綿作業主任者の指示のもと作業を行って下さい。
- ・ スレート破損部は、差し替えるか板金でカバーして下さい。
- ・ アスベストを含むスレートではケレン等による清掃では取り切れなかった汚れが残ります。残った汚れはガイナマルチシーラで固着することができますが、仕上がり感に影響が生じますので、建築主との協議、了解が得ることが必要です。ほこりが舞う場合に打ち水する場合がありますが、滑りやすく危険です。
- ・ 激しい吸い込みが予想されます。濡れ色が出るまで複数回ガイナマルチシーラーを塗布して下さい。吸い込みにより塗布量が不十分な場合、剥離等の不具合が発生します。ガイナの仕上がり色の明度が85以上の場合、最後にするシーラーは、白を選択して下さい。
- ・ 既存スレートがもろく、踏み抜きの可能性がある場合は作業を中止して下さい。また、乗れる場合でも足場板を敷き荷重分散させるなどの安全対策を行って下さい。

※明かり取り部へガイナを塗装する際もマルチシーラーをご使用下さい。明かり取り部への塗装は可能ですが踏み抜きの可能性が高いポリカーボネートなど等の基材が使用されることが多くガイナ塗布後にそれらが分かるよう（ポリカーボネート）の縁を別色で塗装するなど配慮が必要です。



- ・ ガイナマルチシーラーを使用します。
- ・ ガイナを塗布する際、吹付けが最適ですが環境により施工不可の場合、**ウールローラー中長毛（20mm前後）を推奨**します。トタンローラー、波板ローラーにも有効です。

平板スレート系

- ・ 塗装に不向きか不具合が出やすい屋根材かどうかを事前に調査をして下さい。
- ・ 事前にアスベスト調査を行い、石綿作業主任者の指示のもと作業を行って下さい。
- ・ アーバニー系は施工が困難です。基本は塗れません。
- ・ 板金部分には、ガイナメタルプライマーIもしくはIIを塗布し、スレート部分にはガイナマルチシーラーを塗布して下さい。スレート部の吸い込みが激しい場合は、濡れ色が出るまで複数回塗布してください。不十分な場合、剥離等の不具合が発生します。ガイナの仕上がり色の明度が85以上の場合、塗布するシーラーは、白を選択して下さい。
- ・ 必ず縁切り作業を行って下さい。
- ・ ガイナ塗装時、板金端部、雪止め、谷部、スレート重なり部などは刷毛でダメ込みを行って下さい。コロニアル、カラーベストは1枚ずつ横に塗り広げ、縦に仕上げて下さい。複数枚同時に塗ると、重なり部を埋めてしまう可能性があります。

下
地
処
理



- ・ 表面の乾燥が比較的に早いいため、ムラが生じる可能性があります。この際、**ウールローラー（11mm～15mm）**を推奨します。

- ・ コロニアル、カラーベスト等はタスペーサーの使用を推奨します。タスペーサーにより縁切りをし、重ね部をドライに保つことで排水効果が高まり、カビや藻の発生を遅らせることができます。タスペーサーは高圧洗浄又は下塗りの後に取り付けて下さい。910mmの屋根材の場合、両端から15cmの箇所に1個ずつ、計二個使用して下さい。タスペーサーはクッション性を考慮して01型を推奨します。



タスペーサー01

- ・ 下地のクラック、剥離、欠損は、事前に補修を行って下さい。
- ・ 既存塗膜の剥離箇所は下地補修後、既存塗膜の塗装仕様でパターン合わせを行って下さい。
- ・ 塗料の飛散防止のため、非塗装対象物には、適切に養生シート施工を行って下さい。
- ・ ガイナ塗膜の上に養生テープを使用する際は、超粗面用テープを使用して下さい。
※ガイナスーパークリーンでは、通常のテープより接着しづらい場合がありますのでご注意ください。
- ・ 上から下にローラーの目を合わせて施工して下さい。
- ・ 蓄熱されやすい建材（軽量モルタル、ALC、窯業サイディング、発泡ウレタン使用建材など）を使用した「高断熱型外壁」で、旧塗膜が弾性リシン、弾性スタッコ、アクリルトップなどの場合、塗り替え段階で、既に旧塗膜が膨れていることがあります。
 そのまま塗装をすると膨れが拡大する可能性がありますので、膨れ部分を完全に除去して下さい。
 また「高断熱型外壁」に塗装する場合は、蓄熱、水分、下地の状態、塗装環境などの複数の条件が重なることで、建物の変形、塗膜の膨れ、剥離が生じることがあります。
- ・ 長尺板金壁のような縦長で継ぎ目がない外壁材の場合、足場と干渉する部位にムラが顕著に表出すること恐れがあります。上から下まで一気に繋ぐ、又は足場の段ごとに養生で見切る対策が必要です。
- ・ タッチアップを行う際は、まず補修箇所を中心に四角に水を塗り付けて下さい。配った水の上でローラーや、刷毛をきるようにして下さい。補修が目立ちにくくなります。配る水が多すぎると塗料が流れる恐れがあります。

サイディング壁

- ・光触媒サイディングなど難付着系の壁材では、ガイナマルチシーラーをご使用下さい。他のシーラーでは剥離の恐れがあります。これら以外の通常サイディングの場合は、ガイナ水性カチオンシーラー、ガイナマルチシーラー、ガイナ微弾性フィラー を使用して下さい。
- ・直貼りサイディングには塗装は不向きですが、やむを得ず塗装する場合は、微弾性フィラーではなく、劣化状態に合わせガイナカチオンシーラー又はガイナマルチシーラーをご使用下さい。微弾性フィラーを使用すると膨れが広がる恐れがあります。
- ・横張りサイディングの場合には、横向きにローラーで仕上げて下さい。
- ・目地が深いサイディングの場合、目地に溜まったガイナがひび割れを起こす可能性があります。毛丈の長いローラーで目地に溜まらぬよう押し付けながら塗装して下さい。それでも収まらない場合は、希釈量10～15%前後のガイナでひび割れを埋めながら三回目の塗装を行って下さい。
- ・ガイナは塗膜が厚いため、相じゃくりが埋まる箇所と埋まらない箇所が発生します。



- ・ガイナ塗装時には、ウールローラー中長毛（20mm前後）を推奨します
- ・ガイナの仕上げ色を明度90番以上で仕上げる場合は、ガイナ微弾性フィラーを推奨します。

下
地
処
理

RC、モルタル、ALC

- ・RC壁のジャンカ、爆裂、欠損は、事前にモルタル補修を行って下さい。
- ・クラックには、Vカット又はUカット補修やエポキシ注入補修を行って下さい。
- ・ALC面、多孔質下地、コンクリートブロック面など外部の素地において巣穴や段差などがある場合は、樹脂入りセメント系下地調整材などで処理して下さい。
- ・旧塗膜あり：下地処理を行ったのち、ガイナ微弾性フィラーを塗布して下さい。下地の劣化、吸い込みが激しい場合は、ガイナ水性カチオンシーラー又はガイナマルチシーラーを塗布後、ガイナ微弾性フィラーを塗装して下さい。
(新規・旧塗膜が無いRCやモルタルには直接微弾性フィラーは塗らないで下さい。)



ガイナ施工時には、ウールローラー中長毛（20mm前後）を推奨します。

石膏ボード、ケイカル板、ベニヤ等新設の場合

- ・ボードを新設するときにはテーパー処理されたボードをご使用下さい。
- ・塗装用下地クロスをご使用の場合には入隅は突き付けて下さい。乾燥後、入隅ではひびが入ります。入隅にはコーキング処理をして下さい。
- ・石膏ボードが規定量の釘で止めてあることを確認をして下さい。
- ・ビス穴も同様にパテ処理を行って下さい。
- ・ベニヤの場合、ヤニ止めシーラーを塗布しフシ部分にパテ処理をおこなって下さい。
- ・ガイナ塗装前にシーラー処理を行って下さい。
- ・ケイカル板の場合、シーラー処理後パテ処理をおこなって下さい。
- ・出隅部分にはコーナービートを施工して下さい。
- ・ボードのジョイント部にメッシュテープを貼り付け塗装用のパテで平滑になるよう、（パテ作業：2回～3回程度）全てパテ埋めを行って下さい。パテ埋めを行った箇所は、ガイナコテ仕上げで1回以上。ローラー仕上げで2回以上。吹付け仕上げで3回以上を目安に行って下さい。
※パテの種類、水分量によって変化します。
- ・マスキングテープを貼る際には、2mm～3mm程度逃がして貼り付けて下さい。マスキングテープの撤去時に塗膜をめくる恐れがあります。
- ・ローラー模様を統一しながら施工して下さい。
- ・目地などで継ぎ目が切れない場合は、塗り継ぎにならないよう一気に塗りきって下さい。
- ・入隅、額縁廻りのダメ込を行う際、ミニローラー等でダメ込を行うと端部までローラー模様を統一することができます。
- ・大壁をローラー施工する際、7インチ等の幅が広く、芯がしっかりしている物を使用すると「ミミ」の発生を軽減できます。
- ・施工後の手垢、汚れは、水に濡らしたメラミンスポンジで清掃して下さい。
- ・タッチアップを行う際は、まず補修箇所を中心に四角に水を塗り付けて下さい。配った水の上でローラーや、刷毛をきるようにして下さい。補修が目立ちにくくなります。配る水が多すぎると塗料が流れる恐れがあります。
- ・施工完了後は、1週間ほど換気をして下さい。換気が不十分な場合長期間にわたり臭気が残る場合があります。

既存ビニルクロスの場合

- ・ビニルクロスに割れ、膨れ、剥がれの有無を確認し、剥がれ部やジョイントの浮きは、切開しパテ処理を行って下さい。
- ・中性洗剤でほこり、汚れ等を除去し、シミ止めシーラー等を塗布して下さい。
- ・タバコのヤニの場合は、可能な限り水拭きで除去し、ヤニ止めシーラーを状況に応じて塗布して下さい。
- ・施工後一時的に膨れが発生することがあります。乾燥後収まるケースが多いのですが、収まらない場合は、切開しパテ処理を行いタッチアップを行って下さい。
- ・下地に補強用コンパネなどが設置されている場合もヤニ止めシーラー又はメタルプライマーIを状況に応じて塗布して下さい。

その他の下地

- ・ベニヤ等の木材の場合は、ヤニ止めシーラー又はメタルプライマーIを状況に応じてヤニが止まるまで塗布して下さい。

・ ガイナ～ガイナ塗替え ・



- ・ 経年による素地とガイナ塗膜との密着、汚れ、カビ・藻、発錆、クラックの有無を確認して下さい。ガイナ塗膜の劣化具合により適切な下地処理と下塗り材の選定をして下さい。
- ・ また、カビ・藻は薬品で不活性化もしくは殺菌処理をして下さい。

外壁・屋根

- ・ 経年5年程度で下地との密着が良好（カビ・藻、クラック、発錆無し）であれば、中・低圧で水洗浄し汚れを除去して下さい。
- ・ 下塗りはガイナ水性カチオンシーラー又はガイナマルチシーラーを使用し、塗布後にガイナを2回塗りして下さい。

経年10年以上、下地との密着が良くなく汚れ、カビ・藻、発錆、クラックが目立つ場合

- ・ 基材の破損に注意して高圧洗浄して下さい。水圧は150kgf/cm²確保し、白華や脆弱な塗膜、カビや藻は除去して下さい。落ちきれなかったカビ・藻は薬品で不活化もしくは殺菌処理をして下さい。

トタン・折板屋根（金属）の場合

- ・ 可能な限り発錆部を除去後にガイナメタルプライマーⅠ又はガイナメタルプライマーⅡ塗布後にガイナ2回塗りして下さい。

コロニアル、スレート屋根の場合

- ・ ガイナマルチシーラー塗布後にガイナ2回塗りして下さい。

サイディング、ALC面の場合

- ・ 状況に応じて、ガイナ水性カチオンシーラー又はガイナマルチシーラー（ガイナ微弾性フィラー）塗布後にガイナ2回塗りして下さい。

ビニールクロスやボード面

- ・ ガイナ水性カチオンシーラー塗布後にガイナ2回塗りして下さい。
但し、壁にたばこのヤニ付着がある場合は可能な限り水拭きで除去後に他社製ヤニ止めシーラーをご使用下さい。

織物クロス面

- ・ 既存クロスが織物クロスの場合には、ガイナ塗装をしても下地の織物目が出ます。建築主に確認をして了解を得た後に塗布して下さい。



- ・ 仕上げには必ずガイナを2回塗布して下さい。旧塗膜にカビ、藻の付着が多くみられた場合は、下地材の殺菌処理後、上塗りとは中塗りにガイナ専用抗菌材を混ぜてご使用して下さい。また、上塗りにガイナスーパークリーンのご使用もご検討下さい。

ガイナ（オプション品）について

- ・ 抗菌タイプは日が当たりにくく、水はけが悪い箇所（苔・カビの発生が予測できる施工面）へガイナを塗布する場合に使用するガイナに抗菌性を付与した製品です。
- ・ 抗菌材は塗装面に均等に分布しないと、効果にムラが生じます。
- ・ 抗菌剤を添加する時は通常よりも入念に攪拌する必要があります。

①抗菌剤は希釈水に添加し、よく混ぜて下さい。

②抗菌成分が均等に混ざった希釈水をガイナに加え通常よりも念入りに攪拌して下さい。



- ・ 一般の塗装工事と同様に、ガイナ及びノン結露の施工は下地調整第一で施工を行って下さい。錆、汚れはよく落とし、素材に合ったプライマー、シーラー等にて処理し施工願います。カビ及び藻類に関しては素地調整の段階で除菌・殺菌処理を行って下さい。カビ・藻類を除菌・殺菌しない状態で施工しますと、再発する可能性があります。
- ・ 防藻、防カビ効果は、繁殖を抑制するものです。施工部位の形状、構造、環境条件によっては防藻、防カビ効果が十分に発揮されない場合があります。また、すでにカビ、藻が繁殖している場合は、下地処理として除去及び殺菌処理を行って下さい。

3. 塗装準備



⚠ 攪拌する際は必ず**攪拌機**を使用して下さい。

数種類のセラミックが入った液状のガイナ

※ガイナには大量の特殊セラミック含有されています。
開缶時には比重の軽い特殊セラミックが上部に浮いていますので
念入りに**攪拌**して下さい。

攪拌時間は**3～5分以上**確保して下さい

希釈する際は、清水をご使用下さい。
(井戸水、工業用水は使用不可)



※缶を振ったり棒などでの攪拌は絶対に避けて下さい。

ガイナの**特殊セラミック**と樹脂は一定の圧力がないと混ざらないため、単に棒などで混ぜるだけでは分離したセラミックは樹脂に混ざりません。

※セラミックが均等に**分散されていない**と塗装品質、遮熱断熱性能に影響を及ぼします。

● 希釈・攪拌 ●

①開缶すると落し蓋フィルムがありますので取り除いて下さい。

※落し蓋の裏についているガイナは比重の軽いセラミックが多量についているので、本体に戻して攪拌して下さい。



蓋を軽く押さえフィルムを引っ張る

②希釈のための清水を加える前に、十分に攪拌を行い、希釈水は一度に加水せず、少しずつ加えながら攪拌し、工具に応じた粘度にしてください。

※工具や季節に応じて、希釈量が変わります。



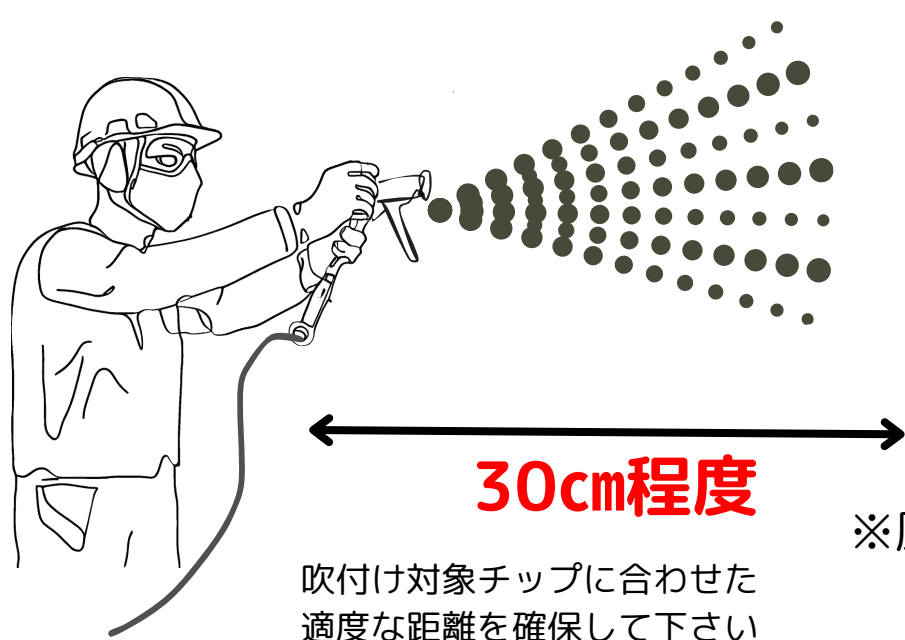
一点に集中せず、全方位に円を描くように攪拌する。



※1缶を使い切る前に塗装作業を中断した場合、塗装作業再開時には必ず**1分程度の攪拌**をしてください。攪拌後は塗材の表面にビニールを密着させてしっかり覆い、蓋をしてください。

吹付け

ガイナはエアレスでの施工を推奨しております。



・ゆず肌仕上げの場合

口径：3mmの温風低圧ガン

希釈量：10%前後

・フラット仕上げの場合

口径：0.6mm前後圧送式の吹付け機

希釈量：15%～20%

※風の具合にもよりますが、10～20%のロスを見込み
1缶28～32㎡で使用して下さい。

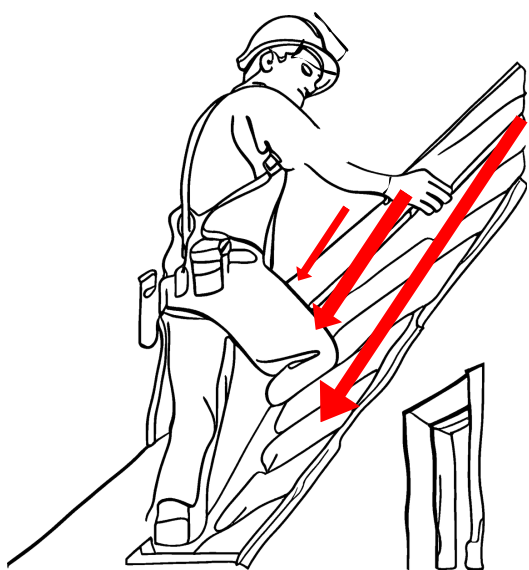
※塗装機はホッパー付きの塗装機を推奨します。

ガイナが固まらないようにビニールなどで落し蓋をし、定期的に攪拌機で攪拌して下さい。

- ・ガイナは比重が軽く飛散が多いという特徴があります。周辺環境に配慮し、施工の判断をして下さい。
- ・ゴーグル、マスク等の保護具を適切に使用して下さい。
- ・強風時には、施工をしないで下さい。
- ・足場板の境は、足場の影でムラにならないよう十分に注意して下さい。
- ・ムラになった場合はウールローラーを使って調整して下さい。

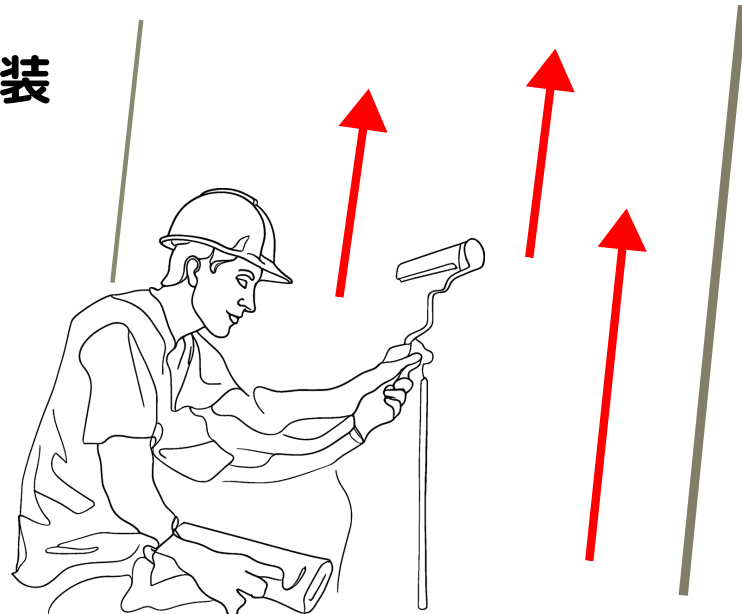
ローラー

外装



スレート屋根は横にガイナを配り
均等に厚みをとれたら上から下へ仕上げる。

内装



縦にガイナを配り横に均し、
下から上へと仕上げる。

- ・一回目は横方向にムラにならないように塗装し、仕上げ工程では横縦の順番で塗装して仕上げて下さい。
- ・ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げて下さい。ローラー目により、色相や仕上がり感が異なって見えることがあります。

- 溶剤系の製品を取り扱う場合は、特に火気に注意し消防法及び労働安全衛生法等を厳守して下さい。
- 改装工事に溶剤系の下塗材をご使用の場合は溶剤などの影響により、旧塗膜を侵し、膨れ、ちぢみなどの異常が発生することがあります。本施工の前に試し塗りにより確認して下さい。
- 塗装場所の気温が5℃未満、もしくは湿度85%以上である場合、又は換気が十分ではなく結露の発生が考えられる場合には、塗装は避けて下さい。
- 2液タイプ下塗材のガイナメタルプライマーII・ガイナマルチシーラーをご使用の際は可使時間 及び乾燥時間（23℃の環境下でガイナメタルプライマーII・5時間ガイナマルチシーラー・6時間）を守ってご使用下さい。
※可使時間及び乾燥時間が過ぎた商品をご使用にはならないで下さい。密着不良や剥離の原因となります。
- 下塗材の所要量は、下地の劣化の状況や形状により増加する場合があります。
- 新設コンクリート及びモルタルでは、素地表面のアルカリ度はpH10以下、表面含水率10%以下で塗装して下さい。
- 塗装時および塗装後に部屋を密閉すると乾燥が遅れます。換気を十分に行って下さい。
- 塗装後、高湿度な環境状況が予測される場合には塗装を避けて下さい。
膨れ、剥離、割れ、白化、シミが発生するおそれがあります。
- ガイナは使用量が少ないと色相が変化して見えるなど、十分に隠ぺいできないことがあります。
- 十分な塗布量が得られるように、標準塗装仕様を厳守して下さい。
- ロールや刷毛などはガイナ専用で使用し、他の塗料には使用しないで下さい。
- 塗装時に使用中のロールなどを多量の水に漬けておくと、分離した成分が表面に浮くことがあります。その際はロールを洗浄して浮遊成分を十分取り除いてから塗装を再開して下さい。
- 被塗装物以外にガイナが付着した場合は、速やかに水拭きして下さい。
- 下地が吹付けやロール塗りの場合に、刷毛で補修塗りをを行うと補修部が目立ってしまう可能性があります。
- 乾燥過程で、降雨・結露の影響を受けると白化することがあります。
- 塗装後、養生テープはナイフ等を使用して取り外して下さい。
- 傷、汚れなどにより完成後に補修塗りが必要な場合があります。使用したガイナのロット番号は必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの塗装条件を同じにして下さい。
- 構造や部位、環境条件により、低汚染性が発揮されない場合があります。（傾斜壁の下部、笠木がない壁、汚れが溜まりやすい窓周り、横目地下部、降雨がかからない面、シーリングからの汚染物質の影響）

- 氷点下で保管すると凍ります。凍らないように5℃以上維持できる場所で保管して下さい（一度凍った商品は使用しないで下さい）
- 保管・運搬時に容器を横倒しにしないで下さい。漏洩の原因になります。
- ガイナが容器からこぼれた時には、布で拭きとり、水の入った容器に保管して下さい。
- ガイナの積み重ねは3缶までとして下さい。
- ガイナを捨てる時は地方自治体の規則に従って、産業廃棄物として処分して下さい。
- 容器は垂直に持ち上げて下さい。斜めに持ち上げると取手が外れ、落下事故に繋がる可能性があります。
- 火災時には炭酸ガス消火器、泡消火器又は粉末消火器を使用して下さい。
- 製品の安全に関する詳細な内容については、安全データシート(SDS)をご参照下さい。
- 誤って飲み込んだ場合には、直ちに吐き出させ医師の診察を受けて下さい。
- 蒸気・臭いなどを吸い込んで気分が悪くなった時は、空気の清浄な場所で安静にし、医師の診察を受けて下さい。
- 本製品を輸出される場合は事前にご相談下さい。
- 取扱い中は、皮膚に触れないようにし、必要に応じて保護手袋・保護衣・保護メガネ・保護面等の保護具を着用して下さい。
- 取扱い後は、手洗い・うがいを十分に行って下さい。
- 皮膚に付着した場合には、直ちに多量の石けん水で洗い落とし、痛み又は外観に変化がある時は、医師の診察を受けて下さい。
- 子供の手の届かないところに保管して下さい。
- 乾燥前は食料品・飲食器・衣類等にうつる場合がありますので、作業場所から遠ざける又は養生する等、十分に注意して下さい。
- 品質・性能確保のため、**製造後3カ月以内**に使い切して下さい。

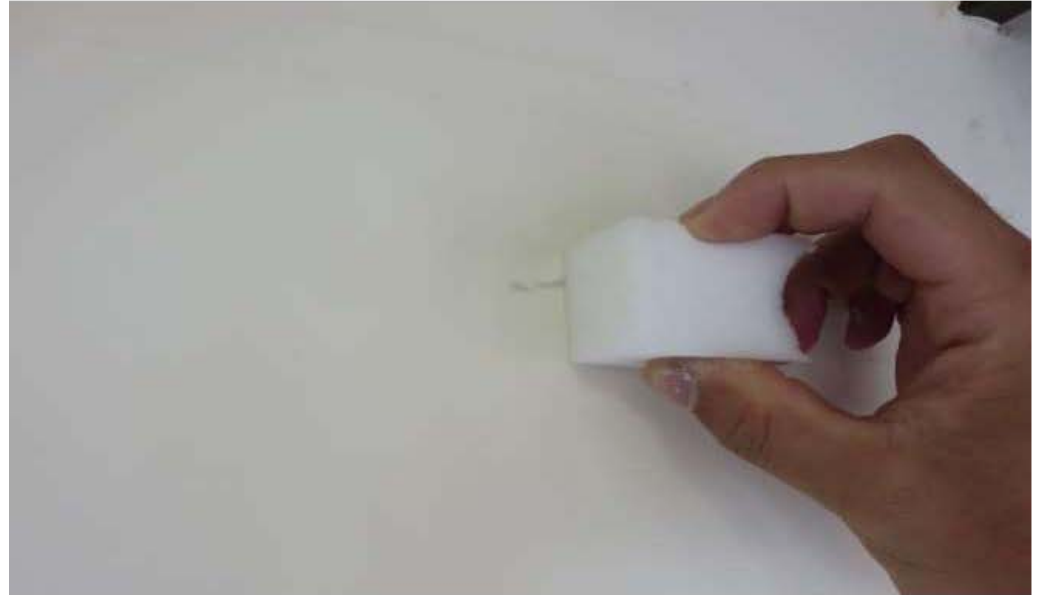
ガイナお手入れ方法について（参考）

- ①擦り傷や手垢などの汚れは、水拭きもしくは中性洗剤で拭き取して下さい。



- ②中性洗剤でも落ちない汚れは、メラミンスポンジに水を含ませ軽く擦ります。擦った後は、しっかり水拭きして下さい。

※メラミンスポンジの擦りカスが、汚れの原因になります。



- ③上記の①②でも落ちない汚れは、ガイナと刷毛で補修して下さい。

※ガイナはよくかき混ぜてからご使用下さい。
※刷毛は、豚毛が扱いやすくなります。
※汚れ部分を上から軽く叩くように補修して下さい。
※入隅のクラック、出隅の塗膜の欠けも、同様に補修できます。1回塗っても色が被らない場合は乾燥後、再度上から補修をして下さい。1度の補修では色が被りません。



株式会社 日進産業



快適空間でお客様を笑顔にする

GAINA

株式会社 日進産業